

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 南ユニット)

事業所番号	0691700066		
法人名	社会福祉法人 たいよう福祉会		
事業所名	グループホーム ソーレ東根		
所在地	山形県東根市温泉町2丁目5番15号		
自己評価作成日	平成28年 9月 20日	開設年月日	平成 27年 5月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の生活ペース・習慣を大切にす為、本人家族とのコミュニケーションを多くとるようにしている。ご家族本人の希望があれば、主治医と連携し、最期の看取りまで行っている。又、認知症カフェがあり、介護研修の開催や相談・交流などに誰でも利用できます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 28年 10月 25日	評価結果決定日	平成 28年 11月 9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ソーレケアビレッジ東根の一角に位置するグループホームで、認知症カフェを常設し介護相談、研修などを行って地域の福祉拠点としての役割を担っています。職員は利用者の声に耳を傾けその立場に立って行動し、個人個人の今までの暮らし方や習慣を維持できるように家族等との会話を大切にしながら介助し、利用者は食事の準備時間が来ると、身支度して自らキッチンに入り、出来る事を手伝っています。家族のようにふれあい、それぞれの思いを把握し利用者本位の支援をしている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己外部 項目		自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を事務所に掲示。朝礼時に唱和していたが、読み忘れるときもあった。	法人理念を事務所に掲示し、朝礼時や見守りをしながら確認している。今までの暮らしを継続してもらい利用者から「～したい」の声が出て自主的に手伝いをするようになり、習慣として受け止められるようになってきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動へは参加できていない。地域やボランティアの方が来所し会話や出し物を通し交流している。	ケアタウン全体で町内会に加入し、母体を通じて地域での作業に参加している。祭りには子供神輿に回ってもらい、また、高校生の徳内ばやしやしの慰問などで利用者の喜びも大きい。認知症カフェには集いの場として独り暮らしの方も訪れている。	今後、近隣の方の力を借りることも多くなる。事業所の方から地域に向けて情報の発信などグループホームの活動を知らせる取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェで介護教室や介護相談を受けている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容を回覧スタッフに伝え周知している。	運営推進会議は、区長と民生委員、市担当者や家族等、利用者も参加し開かれている。委員の中から介護教室を開いたらどうかとの要望で「たいよう教室」を開き、リハビリ体操を行ったりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点、気になる点があれば、市の担当者に連絡相談している。	市担当者からは、運営推進会議に参加して実情を理解してもらっている。家族等との対応など助言を得て問題解決に向け一緒に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	玄関は常に鍵がかかっておらず、自由に外出できる。	玄関の開閉時にはベルの音が鳴るようにセットして、施錠しない生活を送っている。常に「その言葉ってどうなんだろう」と問題意識を持って話し合い、言葉の拘束にならないか確認している。何時もと違う行動については、フロアのホワイトボードに書き、互いに連携し、利用者と一緒に行動する事で拘束しないケアを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議の時間を使い、研修やカンファレンスを持っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人研修会に参加し、伝達研修を行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に家族から疑問点や不安に思っていることを確認し、質問に答え不明点を解消している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	理事長への意見ボックスが設置されており、スタッフへの内容伝達もあるため、ケアの改善検討に活かしている。	理事長ボックスの名称で意見箱を設置し、家族との面会時に会話を通じて意見や要望を聞き取っている。家族の不安なことや悩みを受け入れ、職員間で共有しサービスにつないでいる。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を実施し、意見や悩み、提案を聞く時間をとっている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表を記入し、個人面談を実施。サンクスカードを記入し、スタッフの向上心を高めるようにしている。			
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	プリセプター制度を導入し、面談や研修の実施。外部や法人での研修に参加を促している。	研修は、経験年数に応じて受講し、研修後は全体会議の時に報告して共有している。プリセプター制度を取り入れ自己研鑽を積み、サンクスカードを使って、職員同志の心の交流を図り、互いに感謝する気持ちを育てている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	事業所サービス連絡会などに参加し、情報交換を行っている。	市主催のサービス部会にはホーム長が出席し、他事業所と情報交換を行っている。部会の中で認知症カフェの利用を呼び掛け、ネットワーク作りをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査の中で、本人の生活歴や入所する際の不安点を確認し、解消できるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時や申し込み時に不安点や悩みを確認し、解消できるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常で会話を多く持ち、本人が望んでいること家族の希望を介護計画書に反映している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人でできる方には声がけをし、役割を持ってもらっている。一人では難しい方には、スタッフが付き添い、一緒に作業を行っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日頃の様子を伝え、その際、ケアに対しての考えがあれば聞き取りを行っている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族や友人の面会もみられている。法人内でのお祭りや文化祭へ家族と一緒に参加できるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	畑仕事や軽作業を行い、お互いに協力したり声を掛け合えるようにしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所への移動、医療機関へ入院する際、必要な情報を提供している。それでも不明な点は、電話などで連絡対応するようにしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の様子や何気ない会話等も記録に残し、希望や意向の把握に努めている。	入浴時や外出の途中など、1対1の時に利用者の思いを聴き取り記録に残して共有を図り、希望に沿えるようにしている。、訴えの困難な時には表情やしぐさをよく見て思いを理解している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査で生活歴の聞き取り、生活時間等の聞き取りを行っている。施設でも馴染みの環境で生活できるよう使い慣れたものを持参してもらっている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前調査で聞き取りをした情報をもとに、生活の様子を観察記録している。朝礼時、夜勤交代時に申し送り、現状把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全体会議、ユニット会議を月1回行い、そこで出たアイデアなどを計画所に反映している。家族来所時に様子を伝え意見を聞き取り計画作成に反映するよう努めている。	ユニット会議で個人個人の生活の様子を確認し、全体会議の中でも色々な方向から検討し、家族等の意見も加え不安なく暮らせるように作っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の生活状況や会話を記録し、状況の把握に努めている。また朝夕、申し送り時に情報共有に努め、ケアの実践や介護計画の見直しに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で出てきた意見を取り入れたり、面会に来た方から意見を取り入れ、生活の中で楽しみが持てるよう努めている。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望する医療機関をかかりつけ医にしている。利用者が適切な処置、治療が受けられるよう情報提供を行って連携をとっている。	在宅診療所による訪問診療とそれぞれが持つ主治医を継続し、職員による通院介助によって健康管理が行われている。家族等には受診結果や暮らしの様子について細やかに報告をすることで、安心と信頼につながっている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護スタッフへ朝礼時や体調不良時に報告し相談、指示を受けている。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医や協力医療機関に情報提供し、適切な治療・処置が受けられるよう努めている。入院時・退院時はカンファレンスに参加し、家族とも連絡を密にし情報共有に努めている。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族へ重度化した時の対応や考えを説明し、家族・本人の希望を聞いている。家族の意向を職員間・医療機関と共有し希望に合ったケアを行うようにしている。	本人や家族の意向を踏まえ、「重度化に関する指針」に基づいて在宅診療所など医療機関と連携の下で、看取りを行っている。重度化に伴って環境を整え、各職種で連携し最善の方法で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備え、年1回消防署の方から救命救急の講習を受けている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・防災訓練を年2回実施。9月1日の防災の日非常炊き出し訓練を行い、実践的な訓練をしている。火災訓練時は、入居者も消火器の使い方などを、消防職員より指導してもらっている。	避難口の障害物の除去や防火扉の閉鎖障害などを確認しながら、利用者の安全確保を最優先に取り組んでいる。利用者も参加して炊き出し訓練を行ったり、様々な災害を想定した訓練を重ね、災害に対する知識を習得している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の、人権を尊重し、言葉使いに気を付けている。	人格を尊重し、一人ひとりに合わせた言葉かけで利用者の気持ちを大切にしている。利用者の意向を優先にしてケアできるように、日常的に確認と改善に向けて取り組んでいる。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすいよう、声かけを工夫しその方の意向や希望に合ったケアをできるように努めている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく入居者の希望を優先し、ケアを実施するようにしている。時々スタッフの意向が優先されてしまうこともある。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族から散髪・毛染め依頼があれば対応している。女性の利用者がメイクをしている時は、ほめておしゃれに対し意識してもらえよう配慮している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に入居者の希望を取りれたり、その季節のものや、行事に関わる食事を提供している。片付けや準備も入居者が積極的に取り組んでいる。	それぞれの嗜好や希望を取り入れて週ごとにメニューを作成し、買い出しにも一緒に出掛けている。調理の下ごしらえや配膳・片付けなど利用者の前向きな気持ちを引き出すように場面づくりを行い、手伝いができることで自信と喜びを得ている。	食事中にも話題を提供して食の喜びを感じてもらい、更にコミュニケーションを図れるよう期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1週間分のメニューを担当になったスタッフが作成し、その後、他スタッフが確認メニューの検討を行う。入居者の身体状況・禁忌食品を確認し提供する。水分がとれるよう、提供時間以外も声がけし、水分摂取を促している。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の身体状況に合わせて、声がけ・介助を行っている。義歯の方は洗浄や消毒まで声がけや介助をしている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立している方が多いため、声がけや見守り程度となっている。介助が必要な方は定時でのトイレ誘導やこまめに声がけしトイレで排泄できるよう働きかけている。	一人ひとりのサインを確認しながら、あからさまな言葉づかいをしないように注意して介助している。汚れた時には戸惑いや恥ずかしさを軽減できるようにしてさりげなく誘導し、周囲への配慮も怠らないようにしている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に、牛乳や水分を多めにとるようにしている。また、適度に運動してもらえよう、15時にラジオ体操をしたり、散歩に出かけている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には週2回入浴日を決めてはいるが、入居者の希望する時間を確認し、回数を増やしたりするなど対応している。	檜風呂を設けてリフト浴も備え、利用者の状態や受診日なども考慮しながら入浴日を設定している。お湯の交換もその都度行い、無理強いすることなく一人ひとりに合わせた入浴方法でゆったりとくつろいでもらえるようにしている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者のペースで休んでもらっているが、介助が必要な方は声がけし希望に合わせて休息している。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師・提携薬剤師が服薬管理をしている。服薬の変更があれば申し送りノート・記録に残し朝礼などでスタッフに伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備手伝いや食器洗い皿拭き洗濯たたみをしてもらっている。またスタッフ見守りで、施設内や居室掃除を行っている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材やおやつの買い出しにスタッフと一緒に出掛ける。外出が困難な方は、周辺の散歩に出かけたり季節の変化を感じて盛られるようにしている。一人で外出できる方は、行き先・帰所時間を尋ね対応している。	周辺のコンビニやスーパーなど、食事の買い出しにも出かけ楽しんでいる。バラ公園など季節や地域の状況に応じて戸外に出かけ、五感刺激を得ることで利用者の活力を引き出している。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は、職員が見守りをし買い物支払いをしてもらっている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から訴えがあった場合、家族に電話し話してもらっている。手紙を出すことが困難な場合は、スタッフが代わりにポストへ投函している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて生け花やレクなどの写真を掲示板に飾っている。	過度の装飾を控え、利用者が落ち着いて過ごせる様に工夫している。日中の大半をリビングとカフェで過ごす利用者も多く、心地よくゆったりとした雰囲気にも包まれ、生活の場を整えている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルに自由に座れるようにし、一人になりたいときはカフェや一人用のテーブルを利用してもらっている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていたものや、使い慣れたものを持参してもらっている。入居者の生活に合わせた配置をしている。		ベッドやソファ・テレビなどは利用者の身体状況に合わせて配置し、事故防止に努めている。使い慣れた生活用品や思い出の品を置いて、それぞれが思いのままに設えている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者がスムーズに移動できるよう、スペースを確保するようにしている。手すりの少ないところはタンスを置き、手をつきながら歩けるようにしている。		/	